

まほるば



弘前病院の理念

わたしたちは、医の倫理と病院としての使命に基づき患者さまの生命と人権を尊重し良質かつ適切な医療を提供するため、最善の努力をします

第58号

2006年4月発行

北海道・東北ブロック国立病院機構 小児救急研修会

「夜の患者様への対応で大事なものは、笑顔ですね!」、
「『そうだね、お母さん大変だねー!』の一言も!」、
「小児の救命の第一番は気道の確保、呼吸です」、
「今日はバッグバルブマスクを使ったbaggingをマスター
しましょう!」。3月24日(金)午前9時から仙台市
立病院救急救命部の村田祐二先生の熱い講演と実技指
導が多彩な職種の参加者の心に響きます。国立病院機
構の小児科医師をはじめ、津軽地域の小児救急輪番体
制が稼働開始したこともあって、一次の急患診療所や
二次病院のスタッフが多く参加しました。午後からは
大館市立病院小児科医長の高橋義博先生の「小児アレ
ルギー疾患の救急 - アレルギー患児への対応」では、
アナフィラキシーの重症度別対応やエピペンの使用方
法、喘息発作への治療について、又「小児のけいれん
重積」を国立病院機構青森病院副院長の小出信雄先生
から講演をしていただき、発作時の救急処置、問診の

コツ:発作の性状(いつから、どんな、どの
の?)等と具体的にお話しいただきました。
参加した研修医や看護師も小児患者様への治
療の道筋が分かり、少
し力をつけることができたと話していました。最後に、
1月10日から開始した「津軽地域小児救急体制・発足
までの経過」を健生病院小児科医長の田代実先生から
今後の課題も含めてお話しをしていただきました。多
くの職種の方々の参加が実現でき相互の理解も得られ
ました。小児救急に一層の自信を持つことができた
と思います。今回の開催に当たり、各方面への連絡や会
場整備に、ご協力いただいた職員の皆様感謝いたし
ます。



小児科医長 野村由美子

外来診療科案内表示のリニューアル -患者様に優しい病院を目指して-



当院では、初めて
当院を訪れた患者様
に各外来診療科の場
所が分かりやすいよ
うに、3月に各科外
来の案内表示の取り
替え作業を行いました。

案内表示は、紺地に黄文字で作られており、外来
ホールに立つと両サイドの消化器科から小児科まで
が目に入る表示になっています。

今後は、受検を予定している「病院機能評価」の
対応も含め、まだ案内板の改修が必要な箇所はあり
ますが、少しずつ改修していきます。

企画課長 金澤 正博

さくらさくら 弘前の春 -さくらまつり豆知識編-

大正7年(1918年)5月に「第1回観桜会」が開催さ
れてから、「弘前さくらまつり」も今年で88年目になります。

現在、公園内に咲き誇る約50種類2,600本の桜も、正
徳5年(1715年)、津軽藩士が京都から取り寄せた25本
の桜が始まりでした。中には、日本最大幹周のソメイヨシ
ノ(緑の相談所裏、推定樹齢100~120年、主幹幹周5.15m)
や、お堀にまで垂れ下がる枝振りが美しい、棟方志功画
伯命名のシダレザクラ「御滝桜」(天守閣本丸)など、見
事な桜の名木古木があります。

お花見期間だけの臨時列車「弘前お城とさくら号」、こ

ちらは角館駅から秋田
内陸縦貫鉄道で弘前ま
での直行列車ですが、
みちのくを代表する桜
の名所を十二分に堪能
できそうです。また、二
日間フリーエリアの列車



とバスが乗り放題の「津軽フリーパス」などもあるので、
桜いっぱい弘前を拠点に、津軽の春を満喫できます。機
会があれば、是非お出かけ下さい。庶務係 工藤 真淑

外来診療一覽

◆外来医師診療一覽表 (H18年4月1日現在)

診療科		月	火	水	木	金
内科		人見博康	小沢一浩	人見博康	小沢一浩	小沢一浩
呼吸器科		山本勝丸	中川英之	中川英之	山本勝丸	中川英之
消化器科		佐藤年信 吉谷元	佐藤年信 中畑元	佐藤年信 吉谷元	中畑元 (吉谷元)	佐藤年信 中畑元
小児科		杉本和彦 野村由美子 (佐藤啓)	野村由美子 遠藤泰史	杉本和彦 神田進 (佐藤啓)	神田進 遠藤泰史	野村由美子 杉本和彦 佐藤啓
外科		山中祐治 坂本義之	高橋克郎 三上勝也	横山昌樹 山中祐治	横山昌樹 高橋克郎	三上勝也 坂本義之
整形外科	午前	柿崎寛 佐々木資成 近江洋嗣	柿崎寛 菅原卓	佐々木資成 田中大	佐々木資成 大鹿周佐	柿崎寛 田中大
	午後	/	/	/	/	柿崎寛
脳神経外科		/	/	木村正英	/	/
皮膚科	午前	鳴海博美 間山淳	鳴海博美 間山淳	鳴海博美 間山淳	鳴海博美 間山淳	鳴海博美 間山淳
	午後	/	●手術	鳴海博美	●手術	間山淳
泌尿器科		橋本安弘	橋本安弘	橋本安弘	橋本安弘	橋本安弘
産婦人科		真鍋麻美 工藤香里	佐藤春夫 工藤香里	真鍋麻美 工藤香里	●妊婦健診	佐藤春夫 真鍋麻美
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
耳鼻咽喉科		黒田令子 阿部尚央	黒田令子 阿部尚央	●手術	黒田令子 阿部尚央	黒田令子 阿部尚央
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
	治療	/	阿部由直 (午後)	/	/	/
麻酔科		●手術	工藤明	●手術	工藤明	●手術

※学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

54回生入学式 — 附属看護学校 —

4月6日(木)に、保護者および来賓の方々、多くの病院職員の方から見守られながら、看護学校体育館において第54回生の「入学式」が行われました。

入学式では、学生代表が「学校長をはじめ諸先生、上級生のご指導を仰ぎ、学則を守り、看護学生として勉学に励みます。」と誓いの言葉を述べ、立派な看護師になるために頑張ることを約束しました。また、入学式終了後の新聞社の取材でも、「入学式を終え、これからの学校生活で頑張っていくんだと実感が湧いてきました。一生懸命取り組んでいきたい。」と抱負を述べました。

今年度は、男子学生が6名、女子学生が34名の計40名が入学しました。今年度から行った社会人入試により3名が入学しました。(担任の私よりもちょっと年上の学生もいます……)。また、大学を卒業して



から入学した学生などもおり、そのため、例年に比べて若干平均年齢が高く、特色のあるクラスだと思います。その特色を活かし、3年間頑張ってくれることを期待しています。 1学年担任 高橋美智子

市民講座（3月22日）／全身麻酔薬

意識を取り除くために、全身麻酔薬は使われます。この中には鎮痛作用のあるものと、ないものがあり、後者は他の鎮痛薬を加えて手術や処置のときに、また単独で人工呼吸器を使っている患者様などの鎮静に利用します。先人たちは多くの苦勞を重ね、麻酔薬の発見と開発にあたりました。華岡青洲は、1804年に「通仙散」（主成分は曼陀羅華 チョウセンアサガオ）を飲ませて乳がんの手術に成功。1846年米国のモートンが、エーテル吸入の公開実験手術に成功。次いで1847年イギリスのエジンバラ大学のシンプソンはクロロフォルムの麻酔作用を発見。この二つの揮発性麻酔薬（常温で液体、気化して吸入）はたちまちのうちに欧米に広まりました。しかし、クロロフォルムは心臓死が相次ぎ、20世紀半ばには使用されなくなりましたが、その甘い芳香とひと匙分浸したハンカチを嗅がされるとあっという間に意識を失うということから、現在でも犯行に利用されることがあります。エーテルは安全性の高くすりですが、決定的な欠点は引火性があること。電気機器など種々の装備のある現代の手術室等では使用できません。

20世紀半ばからハローセンの合成をはじめ、数種の吸入麻酔薬が登場しましたが、安全性、使い勝手などの理由から現在の一番の生き残りは、セボフルランでしょう。一方、ガス体の麻酔薬、笑気（亜酸



化窒素）は、1844年以来、その利点を認められて今でも現役です。

静脈麻酔は、20世紀初頭バルビツレートの合成に始まり、その数200以上が合成されましたが、医療現場に登場したのはごく一部、生き残りの代表にバルビツレイト（チオペンタール）、ケタミン、ミダゾラム、そして現在最も使用の多いプロポホールがあります。

いずれにせよ全身麻酔薬には、100%効く、安全である、術後の副作用がないなどの諸条件が求められるのは、むかしも今も変わりません。

麻酔科部長 高澤 鞆子

医療安全研修会（リスクマネージメントフォーラム）



3月9日（木）に「第5回リスクマネージメントフォーラム」が開催されました。

テーマは、『みんなでメディカルセイファークの事例分析で安全意識が変わる〜』と題して、13部署の事例分析をパワーポイントで作成し、ポスターにして掲示しました。

会場（地域医療研修室）の約半分の壁面がポスター



で埋まり興味をひくものでした。

参加者は102名で、発表した6部署の事例分析を真剣に聞き、意見交換が行われました。

各部署の取り組みが分かり、弘前病院の一人として、又チームの一員として安全な医療を提供するという意識が高まった研修会でした。

医療安全管理係長 前田美佐子

職場紹介 (放射線科)

放射線科は、放射線科医師（佐々木医長）と放射線科外来看護師（工藤副看護師長以下3名）、更に診療放射線技師（長尾診療放射線技師長以下9名）および放射線助手の総勢14名で、検査や治療のために放射線科を訪れる患者様や診療科スタッフの皆様のお世話をさせていただいています。

当科では、放射線・高磁場を利用した各種診断装置や放射線治療装置など高額医療機器（10数台）を保有し、より質の高い医療を安全かつ効率よく提供できるようにスタッフ一丸となって取り組んでいます。

何事にも「患者様のためになるかどうか」が佐々木医長の口癖で、「患者様中心の医療」が職場のモットーです。

放射線診療棟は、放射線を防護するためと装置が増えるたびに増築されたせいで、窓が極端に少なく一日どんな天気なのか知らないまま過ごすことも希ではありません。色白の美男美女揃いなのはそのせいでしょうか……。

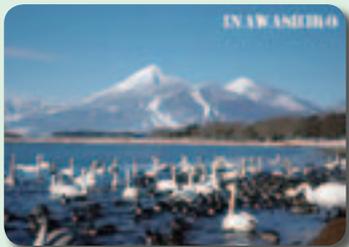
ポータブル撮影などの折、一歩外に出て病室の窓から澄み切った美しい景色を見渡し、外の光は良いなあと思わず見とれてしまうこともあります。

部屋に戻ると、狭い場所でもスタッフ同士互いにぶつかることなく器用にすり抜けながら仕事をこなしています。阿吽の呼吸とでも言うのでしょうか。時に職域を越えて協力し合いながらの連携がこの職場のすばらしいところと自負しています。このチームワークこそが放射線科を支えています。基本的には有害である放射線のメリットを最大限に生かす放射線診療のエキスパートとして、又患者様中心の医療の実現を目指して、心を一つにして歩んでいきたいと思っています。

副診療放射線技師長 庄司 俊雄



ふるさと紹介 わが町自慢／郡山



昨年の6月から当院に勤務しています。私の出身地は、福島県郡山市です。福島県のほぼ中央に位置し、人口は約30万人、安達太良山や猪苗代湖などが良く知られている所でしょうか？1,000円札でお馴染み？の「野口英世記念館」も猪苗代湖のほとりに建っており、昔は遠足で行きましたが、最近はこのあたりも随分と立派になってしまい、観光地といった感じになっていました。

福島県は、ご存知のとおり東北の一番南に位置しており、暖かいといった印象を持たれる方が多いですが、住んでいる地域でも大変差があります。関東に近いこともあり関東圏から冬などはスキーをするために、どういう訳かノーマルタイヤで高速道路を

北上し、東北道から磐越道に入った途端にスリップ事故を起こす車も少なくありません。郡山はまさにこの分岐点にあります。雪の多さは弘前市とは全く比べものになりませんが、四季は割とはっきりしている所かなあと思っています。

郡山市は、明治になって農地開拓により発達した町なので、色々な地域からこの土地に入植して来ました。遠くは九州の久留米からも来ていたらしく、その名残なのか『〇〇でしょう?』と言う言葉は『〇〇だばい』と表現しています。実際久留米という住所が郡山市にはあります。

高校を卒業して直ぐ福島県から離れてしまい、一人暮らしもそろそろ×年?経ちます。故郷を捨てた歌人が、「ふるさとは遠きにありて思うもの そして悲しく歌うもの」と歌っていました。私は故郷を捨てた訳ではありませんが、今回の執筆依頼で、東北北端の青森県から東北南端の福島県を若干懐かしく思い起こした次第です。 診療放射線技師 菅野 典子

川 柳 (今月の作品)

ベルト見て なに食べようか 健診前
看護師の 笑顔がクスリ 退院だ
切りもせず 悪くを取り去る 内視鏡

(山田 晃義)
(館山ハルエ)
(東2 ひざ子)

※ 掲載した作品は、広報誌編集委員会で選出したものです